



市老協だより

— 新春号 —

新年のごあいさつ 協議会としての役割を今年も果たしてまいります

ごあいさつ

明けましておめでとうございます。今年が皆様にとりまして、よりよい一年になりますことをご祈念申し上げます。日頃より当協議会の運営に当たりご理解とご協力を賜りまして大変有難うございます。今年もよろしくお願い致します。二〇一八年の世相を表す漢字は「災」でした。全国各地で様々な災害が起こり、異常気象にも悩まされた年でした。今年は、是非とも真逆の「幸い」「福」の多い一年にしたいものです。

当協議会は京都市内の社会福祉法人が運営している入所系の高齢者福祉施設一一九施設が全て加入されています。全ての加入という例は、全国でも老人福祉施設協議会で唯一と言えるかと思えます。会として、会員施設の実情、希望等を大切にして安定した経営やサービスの質の向上にご利用者ご家族、働く各職員の満足感が高まるように各施設を支援していく役割を今年も果たしていきます。

昨年十一月十一日の「介護の日」の記念行事は、この日の制定以降に一〇年間継続して行ってきました。今年も十一回と語呂がよい事と介護、福祉の仕事をより広く理解と認識を深める必要があるため、「かいごみらいフェス」として京都市、京都市社会福祉協議会共催で、多数の協賛と後援をいただ

いて大々的に行いました。約一年間の準備期間をかけて行い、テレビ、ラジオ等のマスコミ活用や口コミを含む広報と内容の魅力がうまくいった事もあり、一、三〇〇名の方に来場をしていただきました。これに、加えてスタッフ、関係者三〇〇名を合わせると一、六〇〇名規模になり、また、アンケート集計も好評でした。これは当協議会が発足して五十六年になりますが、今までの歴史上最大の催事を成功裏に終える事ができ、関わっていただいた全ての方に厚くお礼を申し上げます。このかいごフェスの取り組みは一年前の新春号で記載した「市民の方を意識した広報や活動実績の実施」「信頼を高めるアクションを起こす」という公約を実現したものでした。

市老協 VISION2025

当協議会として、今後の目指すべき方向性と取り組むべき事業、社会福祉法人としての責務を果たすため事業運営のあり方、地域との関わりの内容等についての中長期的な視点で目指すべき姿を示すことを目的にして、二〇一九年度から二〇二五年度までの七年間を見据えた行動指針となる市老協「VISION2025」を策定します。それを土台にして協議会運営をしていきますので、ご期待ください。

各施設に必要な事はもちろん「ご利用者

主体の運営」が第一ですが、「透明性ある風通しのよい環境づくり」「適切な介護報酬額であること」「健全なマネジメント能力」「臨機応変な対応力」と思います。これの実現のためにも、協議会として京都市はじめ各機関、団体等の皆様と連携して、事業を進めてまいりますのでご支援ご協力をお願いいたします。



一般社団法人
京都市老人福祉施設協議会
会長
山岸 孝 啓

INDEX

- PAGE.1 新年のごあいさつ
- PAGE.2-5 かいごみらいフェス
- PAGE.6 生活相談部会日帰り研修
山科区市老協活動について
- PAGE.7 ハートメッセージ紹介
- PAGE.8 コラム：台風21号被害について

体験部門



今と未来のかいご・ふくし体験部門では、「最先端の車いすやベッドなど福祉用具を体験してもらおう。」「介護ロボットの体験により近未来の介護をイメージしてもらおう。」「施設の食事は美味しいということを伝えたい。」「他にも認知症体験や高齢者体験、健康相談やセミナー、スタンブラリーなど、あふれ出るアイデアを7か月間にわたり議論を重ね、小さな子供さんから学生さん、年配の方まで幅広い年齢層の来場者に、祭りのように楽しんでいただけたらいい。」「イベントを目指し準備して参りました。

苦勞の甲斐もあり当日は予想を超える来場者で、各ブースはスタートから大にぎわいでした。長い列に十分な対応ができず、大変ご迷惑をおかけしましたが、想定外の混乱もありましたが、各ブースの担当者さま

REPORT

今と未来のかいご・ふくし体験

特別養護老人ホーム
向島美郷
始田 知大

の機転を利かせた対応は本当に素晴らしいものでした。また、応援の要請にも快く対応してくださったハートメッセンジャーや施設長、企画運営委員の皆さまのおかげで、一切の事故もなく安全にイベントを終えることができました。加えて関係性が長い年月の中で、施設間のあることを強く感じました。加えて各ブースを盛り上げてくださった皆様の質の高いスキルと情熱には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、ご来場の皆さまよりアンケートで、「普段、目にする事のない介護機器がみられて良かった」「お食事大変手が込んで美味しかったです」「高齢の方への関心を持ってもらえる工夫が多かったのが良かった」など、多くのお褒めのお言葉を頂き、スタッフ一同たいへん光栄に思っております。

このように、イベントを通じて多くの市民の方々に介護・福祉のPRができたことは大きな成果であったと考えています。

今後も市老協の輪がさらに広がり、皆様と一緒に業界を盛り上げていけたら嬉しいです。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



栄養士監修 特製お弁当



京都最大級の
かいご・ふくし
新体感型フェス!!
inみやこめッセ

かいご みらい フェス

たくさんのご来場
ありがとう
ございました!

ステージ部門



立ち見続出！
人気お笑いコント
ミキによる漫才も
ありました！



開会式
11:11
平成30年11月11日11時11分に総合司会の小川京子様のアナウンスで、「かいごみらいフェス」が開会されました。



チアダンス
11:15
龍谷大学付属平安中学校・高等学校のチアダンス部。かいごみらいフェス用に「2018・カイゴ・フェス」とポンポンで文字を描いてくれました。



開会のご挨拶
12:30
「介護・福祉をしている仲間が改めて、やりがいや魅力を再認識してもらい、この業界に定着してもらいたいという想いで企画しております。



KBS京都ラジオ生中継
12:30
KBS京都ラジオの生放送「〜チキチキ・遠藤Nami乗りジョニーextra〜介護の日スペシャル〜」が行われました。



お弁当試食
13:35
管理栄養士監修の特製お弁当を門川京都市長が試食され、「品数も多く、最高に美味しい」と絶賛されていました。



次世代型電動車椅子体験
14:00
山岸会長による紹介のもと門川京都市長が、次世代型電動車いす「WHILL」の試乗をされました。



かいご・ふくし仕事紹介
14:00
かいご・ふくし仕事紹介と題して、介護施設等で働いている様々な職種の仕事内容やその魅力を6名の方に伝えて頂きました。



**漫画家くさか里樹さん
トークショー**
14:40
漫画ヘルプマンの印象深いシーンを作者のくさか里樹さんに選んで頂き、現場で働くスタッフがコメントをする企画でした。漫画を通して、良い意味で、介護のイメージを変えられるような内容となっていました。



B-TRIBEのダンスショー
15:30
「B-TRIBE」の子ども達によるダンス。見た目は可愛い子ども達でしたが、いざ踊りになるととてもカッコよく、会場のお客様を釘付けに。



**ハートメッセンジャー
コーラス隊**
堀内圭三さんとハートメッセンジャーコーラス隊による合唱で、「Are you happy」「Ain't Mountain High Enough」「ハートメッセンジャー」の3曲を披露していただきました。



閉会式
健康長寿のまち・京都推進担当局長 別府正広局長より、閉会のご挨拶が行われ、「かいごみらいフェス」を無事に閉会することができました。
(宝生苑 浅田 逸規)

コンテスト部門



最優秀作品 「幸せ夢機」

宕陰小中学校6年 篠原有さん

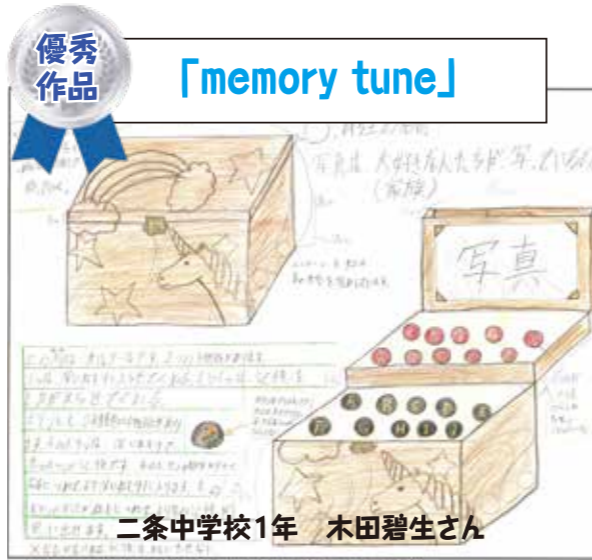
体が不自由で動きにくい人が夢の中で自分のしたい事が出来る機械です。



優秀作品 「あなたの心をさっちゃん」

南大内小学校5年 庄村亜由美さん

その家にいる人の気持ちを読みとるロボットです。元気がない時は、励ましてくれます。電源を押すだけの簡単です。持ち歩くことはできませんが、心優しいロボットです。



優秀作品 「memory tune」

二条中学校1年 木田碧生さん

忘れた記憶を思い出して、ひ孫の名前も覚えていられるおじいちゃん おばあちゃんになれる。

未来のかがいごコンテスト



日本の未来を担う子供達

まずは介護・福祉業界の業務に従事している人の中に小中学生時代に経験した福祉施設での体験学習や高齢者と交流する機会がきっかけでこの道にすすんだ人が数多くおられる現状があります。そのような現状からも、かがいごみらいフェスを有意義なイベントにするにあたっては、「超高齢社会・日本の未来を担う小中学生の子どもたち」に必ず参加してもらいたい」という強い気持ちがありました。そして今回行うこととなったのが、高齢者の生活を助ける未来の道具・乗り物を考えて絵にしてみよう、優秀な作品には賞品をプレゼントするコンテスト「未来のかがいごコンテスト」でした。

誰でも気軽に取り組みやすいテーマに創造してもらいやすいようなテーマで、しかも高齢者の生活を助けるものを考えてもらうことで高齢者や介護・福祉のことをより身近に感じ親しみを覚える効果があることを期待してこのコンテスト内容になりました。

応募全作品をフェス当日に展示し、来場してくださった応募者の皆さんにお菓子をプレゼントすることで、応募者の中から一人でも多くの小中学生がご家族やお友達とフェスに足を運んでくださることを願いつつ準備が始まりました。

301作品!

7月初旬より京都市内の小学校・児童館へ配布させていただいた応募を開始しましたが、9月初旬まではあまり応募がない状態が続きました。ただ、初めての試みで不安もありましたが、応募作品を数枚見せていただいた時点で一般の来場者の方にはたとえ1作品だけでも目を通してくだされば「今日ここにきて良かった」と思ってもらえる、それだけの力があると感じました。そして最終集まったのが、301作品! 1作品ごとの力を感じていただけたら301という数字には圧倒されました。車いす・杖・お風呂など日常生活の身体的な部分を助けるものからリラックス・心の寄り添い・笑顔を引き出すなど精神的な部分を助けるものなど、絵はもろろんですが作品の紹介コメントも個人的で自由な発想がいっぱい詰まっています。どれもそれぞれに見応え読み応えがある素晴らしい作品ばかり。そんな301作品から実行委員の皆様による投票にて優秀賞3作品が選ばれました。

かがいごみらいフェス当日

そしてフェス当日、KBS京都ラジオの公開生放送時間中に3名にステージにて各作品の紹介をしていただいた後に最優秀作品の発表を行いました。審査員は審査委員長のマンガヘルプマン! 作者くさか里樹さん、門川大作京都市長、京都女子大学富田川智志先生、当協議会山岸孝啓会長。最優秀作品には、審査員4名による審査の結果、篠原有さんの「幸せ夢機」が選ばれました。「体が不自由な人が夢の中で自分のしたい事ができる」というもので、「夢を持つことは大事であり、夢の実現に目を向けているところが素晴らしい」と門川京都市長からのコメントがありました。

全体の総評としては審査員のみならずから「どれも高齢者の心に寄り添った作品」「楽しむということに光が向けられていた」「どれも欲しい」「私達では考えつかない新鮮なアイデアでとても楽しませてもらった」などのコメントがあり、最優秀作品の発表は無事に終了することができました。

そして会場の応募作品展示スペースでは、自分の作品に指をさして写真を撮ってもらっている小中学生や作品をみんなで探しているご家族、なかにはお孫さんの作品を見に来られたというご高齢者の姿も見られとてもあたたかい気持ちになりました。

わらわら

301人が高齢者のことを考えて作品を創造してくれたこと、フェス当日の来場者スタッフ・KBSラジオのリスナーさんが作品に目を通した優秀作品の発表を聞いていただいたことがわずかでも介護・福祉の明るい未来につながる可能性を持っていると感じています。

そのようなことでこのコンテスト自体の開催についてはとても有意義であったと思っておりますが、今回個人的に悔いが残ったことがあります。優秀作品に選ばれた3名は小学5年生以上でしたが、今回は小学1年生〜4年生もたくさん応募してくださいました。これがまた勢いのあるとても魅力的な作品ばかり。しかし今回、年齢ごとの審査基準を設けていなかった為、それぞれの魅力に光を当てることができなかったことです。次回こういった事に関わることがありましたらそれぞれの成長過程を尊重した慎重な対応をしていきたいと思います。

最後になりましたが、応募用紙のマンガを描いてくださった宝生苑の播本さん、繋がりのある近隣の小学校や児童館へ直接お願いに回ってくださった各加盟施設の職員のみならず、広報にご協力いただきました各関係機関の皆様、そして小中学校や児童館の先生方と応募してくださった小中学生の皆様から感謝いたします。

(嵐山寮 池田虎彦)

寄稿文

学生といっしょに参加したかがいごみらいフェス

8時30分前、学生と一緒に開場入り。そして開場、たくさんの方々がおいえます。すぐにメインステージを囲む席はいっぱいに。そして11時11分、フェスがスタート。オープニングのダンスのあと、山岸会長の挨拶。そして各ブースがオープン。すでにこの段階で「介護施設の特製弁当」「特製スイーツ」には長蛇の列ができています。

そのうちにKBS京都の公開生放送が始まりました。門川市長と山岸会長が福祉用具を体験し、特製弁当を味わい、トークセッションではハートメッセージジャー・養成校学生も壇上に上がって、かがいごふくしの仕事の魅力が語られました。ミキの漫才が始まる頃には開場があふれかえる感じです。メインステージに来場者が何重にも取り囲みます。その後も午後からもたくさんの方々が来られました。親子連れもたくさんきておられ、介護職の体験ブースが一番長い行列ができていました。くさか里樹さんのトークショーは、養成校のすべての学生に聞いてもらいたい内容。写真展に見入る方、ポッチャを楽しむ方、養成校の学生達も各持ち場で頑張りました。ラストのハートメッセージジャーのうた「え、Are You Happy?」が耳に残る帰り道となりました。

(花園大学 福富昌城)

市老協 ハートメッセンジャー メンバー紹介

ヴィラ稲荷山

- 介護の仕事を選んだ理由は？

中学生のときにボランティアに行ったことがきっかけです。その後、高校で介護の勉強をしました。
- 好きな言葉、座右の銘は？

「みんなひとそれぞれ」
「人生から学ぶお身体をお借りし学ばせていただく」
- 趣味・特技を教えてください。

料理本を読むこと
- ハートメッセンジャーとして一言！

「素敵な介護」をもっと多くの人に知ってもらえるように、伝え続けます!!



久我の杜

- 介護の仕事を選んだ理由は？

福祉に興味があり、学生時代に学んでいたことから今の仕事に就きました。
- 好きな言葉、座右の銘は？

好きな言葉は一期一会です。色々な方との出会いがある仕事なので人との出会いを大切にしています。
- 趣味・特技を教えてください。

趣味は買い物や旅行です。特技はフルートで、行事などで演奏させていただくことがあります。
- ハートメッセンジャーとして一言！

まだまだ未熟ですが、ハートメッセンジャーの一員として頑張りたいと思います！



豊和園

- 介護の仕事を選んだ理由は？

高校生の時に介護施設でアルバイトをしていて、魅力のある仕事だと思ったから。
- 好きな言葉、座右の銘は？

努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのなら、それはまだ努力とは呼べない。王貞治
- 趣味・特技を教えてください。

趣味：ダーツ、釣り、車、特技：野球
- ハートメッセンジャーとして一言！

介護職の素晴らしさを伝えられるように頑張ります。



和順の里

- 介護の仕事を選んだ理由は？

大学で福祉学科に進み、学んでいく中で現場で働きたいと思いました。
- 好きな言葉、座右の銘は？

明日は明日の風が吹く
- 趣味・特技を教えてください。

旅行とスポーツ観戦です。
- ハートメッセンジャーとして一言！

介護に興味を持って頂ける方が増えると嬉しいです。よろしくお願いします。



生活相談部会 日帰り研修

生活相談部会においては、部会員が見聞を広め、スキルアップできる部会を目指しており、十月五日、昨年に引き続き市外での研修を実施しました。業務多忙の中、生活相談部会員、総勢二十七名が満席となったバスで金沢市に向かいました。

今回の研修先である、社会福祉法人佛子園が運営する「Share金沢」は、先進的なコミュニティ作りのモデルとして全国から注目されています。地域共生社会を再興すべく、金沢市郊外の元療養施設であった約一万一千坪の敷地に、「ごちやませ」をコンセプトに、高齢者デイサービス・グループホーム・サービスクラス・高齢者向け住宅・障害のある児童の入所施設・児童発達支援センター・産前産後ケア施設・スポーツ施設・自然学校・パブリックスペース・クリートン・居酒屋・天然温泉等が軒を連ねます。高齢者も児童も、障害がある人もない人も、地域住民も、全ての人が集える場所、交流できる場所、働ける場所を見事に創り出し、「Share金沢」の

理念である、ポジティブウェルフェア（参加する福祉）、第三の医療（人と人とのつながりと健康のメカニズム）の実現を目指した取り組みであると感銘を受けました。街の中は、お洒落な建物が立ち並び、料理教室やウクレレ教室が開かれ、キャンピングカートレラーがアトリエ付き学生向け住宅となっており、金沢美大生など作家のたまごたちがボランティア活動を行い、街の中にはアートや音楽が溢れていました。また、障害をお持ちの方がお世話するアルパカにも出会い、旅の疲れが癒されました。

バスで片道四時間半、兼六園も近江市場も立寄らないという強硬なスケジュールではありましたが、「Share金沢」を訪れ、地域創生を目的とした福祉の実践を見学できた事は、生活相談部会としてソーシャルアクションやコミュニティワーク（間接援助技術）についての深い学びとなりました。山岸会長をはじめ、ご支援をいただいた市老協の皆様方に心より御礼申し上げます。

（特別養護老人ホームそらの木 高田 充）

山科区市老協活動について

平成27年度より、市老協に所属する山科区8つの社会福祉法人による「地域貢献」を目的としたプロジェクトを実施しています。地域の方々が集うイベントには積極的に参加し、高齢者福祉施設を身近な社会資源と捉えていただくための取組みや、介護や利用に関する相談対応や施設情報のリーフレットや一覧表の作成等を行っています。



台風21号被害について



台風21号は各地に大きな被害をもたらしましたが、静原でも北山杉の倒木により電線が切断され、台風当日より停電が発生しました。当初、関係者の話では復旧には一週間以上要するだろうとのことでしたが、当時の関西各地の被災状況や、また北山杉の倒木も斜面一体に折り重なるように大規模に発生していて、二次災害や斜面の倒壊さえ予想される中では、完全な復旧には一週間どころか何カ月もかかるのではないかとさえ思われまし

た。そんな中では、利用者の状態が一番心配され、かなり早い段階で利用者の他施設への移動ということを考えました。結果的には昼夜を徹しての復旧工事により2日間の停電で復旧しましたが、当初は最悪の事態を想定して対応策を考えざるを得ませんでした。電気が供給されない中でも残された施設の機能を活用すれば、施設機能を維持することは、一週間程度は可能

かもしれませんが、もし一週間経って電気が回復しなければ、それから対応に動いたのでは、利用者にとだけ大きな影響を及ぼすか想像に難くありません。そこで、台風の翌日の夕方に、市老協に利用者の受入れ可能な施設を当たって頂くようお願いしました。

実際上様々な方法を駆使して、一週間かそれ以上でも介護施設としての運営を続けることは可能だとは思いますが、けれども施設として無理を重ねれば重ねる程、その

ことはとりもなおさず利用者に負担を強いて、利用者の生活の質や、健康や身体機能の低下を招くことを意味します。福祉サービスに携わる者として、利用者の生活の質や生命までも危険に晒してまで施設機能を維持することは決してあってはなりません。利用者の生活や生命を守れてこそ介護施設としての本来の存在意義があるのだと思います。利用者をはじめ他の施設に移動させることは、当然その後の施設運営や職員の生活までも大きな影響が予想され、厳しい決断ではありましたが、市老協で動いて頂けるといふ安心感があって、正しい判断ができたのだ、と今も思っています。

被災当時、ポータブルの発電機等必要な物品が絶望的に不足していましたが、自法人の施設も大きな被害を受けておられる中で快く発電機を貸して下さったばかりでなく早々に利用者の受入れや支援を申し出て下さった市原寮様と、二次災害の危険の残る道を、必要物品を施設に届けて頂いた市原寮の職員の方、市老協としてできることを様々提案し動いて下さった市老協事務局及び施設関係の皆様、施設の状態を心配して何度も連絡を下さった施設長の皆様、等々、停電の



対応に追われる中でどれ程心強かったことか、感謝は言葉に尽くせません。大きな災害に直面した時、一法人、一施設でできることは本当に限られています。今後も発生が想定される大地震をはじめ大きな自然災害に適切に対応し、利用者にとっても施設にとっても被害を最小限に止めるには、市老協のような施設間の繋がりは大変大きな力になることを、今回の被災で痛感したのでした。

(静原寮 奥本喜裕)

